農園便り 1 月号 (145 号)　　2025/01/01

文責　筒口典康

あけまして、おめでとうございます。

関町南 3 丁目の区民農園 57 区の現況　12 月現在

コンテナーの水溜まりには、水が溜められていて、只今、メダカが越冬中。　里芋の後の空地。　追肥用の深溝。　ネギ列。　カキナ、サヤエンドウ。　隙間には春菊。「糠」を蒔き、腐れ板を置き、霜除けにする。　3 種類のブロッコリー。　春大根「三太郎」。が、元気。　住宅の日陰が迫る。

12 月 20 日、畑にまいりましたら、パパイヤ達が、寒さに震えあがっておりました。根元から切り倒した 2 株は、想定通り皮の内側が溶け始め、地中の根が腐敗(醗酵)していく･･･。で、ありましょう。これで「**根耕**」だ。

これからはもう大シャベルで耕起することも必要ありません。･･･ ? ･･･。　パパイヤの根耕で、重労働からの開放となる。

主根、側根、細根が根穴になる。　溶けた根の空洞は、縦に 1m20 ㎝、横位では 2 mの根穴ができる。　耕うん機で耕したと同じ、空隙ができるのだ。

これはスゴイぞ！。　それに根穴周囲は、養分豊富。　これは、やってみるしかありませんネ。

パパイヤの状況

熱帯植物は、日本の寒さでは、根が溶ける。　パパイヤを列植して畝を根耕させる。後は、表層を三角鍬か草削りで畝を作る。　必要なら中シャベルで畝を作る。　大シャベルは全くいらなくなる。　重労働からの開放だ。　ラクラク。とにかくやってみよう。　パパイヤは、冬には、枯れて、雑草化することはない。

パパイヤの根耕は、2025 年度の新しい課題だ。

「糠」と「玉肥」、玉肥の「菌」。

手持の有機物を置いてかき混ぜて、古板を載せる。腐れたけた板には「菌糸」「胞子」が着いている。　板も糠も全て置く置く。　オクオク･ラクラクなのであります。このあたりは、やってみるしかありません。　「菌」を育てる。　土毎醗酵だ。　**「育土」**すると言うことだ。

腐れかけた古板を表土に置いて、強すぎる日光の紫外線からの防止。　高温や低温被害からの保護。　板で、作業中の踏み圧から守る。　草を防ぐマルチ材。　仮通路。乾燥防止。　板に着いている「菌」は、土毎醗酵の元菌、種子菌。　腐れ板は使えるぞ！。

公園の落ち葉溜まりで、白く醗酵した塊を探す。

いわゆる「シロ」。　善玉菌の塊だ。　犬の糞には気をつけましょう。　「城」をほぐして有機物に混ぜる。　そこには、**ミミズ**がおります。　太ミミズ。　ミミズの糞の中には「放線菌」。　「放線菌」は、フザリュウムやペシュウム等の悪玉の菌をヤッツケル善玉菌。　シマミミズより太ミミズの方が良いと言う。　耕地が狭いからできる試みだ。

カニ殻粉、カニ殻ペレット肥を農協で購入し、撒いています。「放線菌」が喜ぶようなので･･･ 。　カニ殻散布は、病気予防の初手と言えましょう。

醗酵有機肥料を作るチャンス到来。　肥効６・６・６程度

11 月･12 月･1 月･２月は、寒いので病原菌胞子の飛散が少ない。　そこで、「麹菌」→「納豆菌」→「乳酸菌」→「酵母菌」を使って有機肥料を作る。

材料は、先ず「オカラ」、「糠」と**「麹菌」**。40℃。　次いで、**「納豆菌」**。70℃。　物がアルカリに傾くので、**「乳酸菌」**で醗酵させると、中和する。　醗酵物が程よいＰＨになる。　最後の**「酵母菌」**醗酵が大切で、この時に微量要素や手持ちの化学肥料を入れてやると吸収されると言う。　化成肥料の有機化だ。

酵母菌醗酵の段階で、独特な匂いを発生する。　時には酒蔵に居るような芳香が･･･するすることもある。

有機発酵肥料作りの各段階で「糠」「糖質」「水」を補給する。丁寧に混ぜる。　醗酵物は、ネズミに食われないようにビニール袋に入れて、ドウコウ缶で、保管している。　農園便り、１号･2 号をご覧ください。(シニア若竹農園便り１･2 号)

サトウキビ、トウモロコシ、若竹の茎葉、竹パウダー等は、「糖質」に富んでいるので手元にあればこれも使うと良い。

中央の作業路を掘るとヤマイモに出会う。　ちかごろは、農作業は、余り頑張らないようにしている･･･。　体力激減で、頑張れないこともある。　ともかく、オクオク･ラクラクの追求である。　小エネ、省エネ。

有機物を地表に置くだけ、混ぜるだけ。　それで、地中が団粒化してくるのであります。

このところの寒さで、オカワカメ、エヤーポテト、ツルムラサキの葉が溶ける。で、日当たりが良くなった。　支柱やネットを片付けよう。　乾燥続きで水撒きに行く。「春よ来い。」「早く来い」なのであります。

未だ来年の通販カタログが届いていませんが(12/23)、そろそろ届くでしょう。　オールカラーで購買意欲を誘う。　綺麗な出版物、。元が取れるのか心配する。

草花苗/宿根草苗、花木、球根、草花タネ、野菜タネ･根菜･葉菜、野菜苗/いちご、タネいも類･山菜･有用植物苗、果樹苗、農園芸資材･･･と、ある。　各社、色々と工夫されている。　ページをめくるのが楽しい。面白い。

果樹の新種を探すのが好きだ。作りやすいものを探す。　野生種に近く元気に育つ野菜を探す。　そんなつごうのよいものは、中々見つからないが、探す。

「雲南百薬草」＝「オカワカメ」を見つける。　蔓植物である。

ツルナもまた利用したい。　これらは、霜が降るまで収穫できる。　10 ヶ月は収穫

できる。　ツルナは、蔓性ではないが地表に這う。　暖かい海浜に自生する。　少々、イゴイが茹でれば気にならない。

　エアーポテト　　6年前に作った時に、芋が青臭くて美味しくなかったので、しばらく止めていた。　今年のポテトは、美味しかった。　来る年は3倍増。　アピオスと同じ畝に植えてみよう。　蔓植物である。　自然薯の仲間である。

　大和イモ　京芋　　まん丸い自然薯芋。　「京芋」と言うと里芋もあるが、自然薯芋の話。　根が地中深くならないのが良い。　関東ローム(赤土)の土質には合わない。京芋は、掘り取るのが楽。　タキイ種苗で球根を買う。　他の蔓物野菜に負けてしまい大玉を採れていない。　自生するヤマイモの旨さには及ばない。細くて長い山芋は、旨い。　トロロにして頂くのが良い。

　ニューギニアでは、「ヤムイモ」と言う山芋があり、巨大な芋ができる。　農民たちが競争し合うと言う。

　アピオス　　アピオスは、マメ科の芋で、面白い。　中指と親指で結んだ円。

さらに肥料が利くと、その２～3倍の大きさの芋が連珠のように繋がってなる。

　漬物の美味しい東北や長野。　塩分多過で高血圧。　その高血圧の予防に「K」カリ成分をよく含むアピオス芋が導入されたと言う。　マメ科植物の多くは、根に「根粒菌」をつける。　「土」を良くすると期待している。

　地上部は蔓性である。　　茹でたり、焼き芋。やや泥臭い。　澱粉粒がインゲンや栗の様にホクホクしている。

　クロタラリア　　クロタの根が線虫にやられると、穴周辺の細胞が増殖してセンチュウを締めあげて殺すそうだ。　マメ科なので「土」を良くする。　大根列の隣に植えると、美肌大根ができる。

　クロタラリア株全体が、富栄養。緑肥として使っている。　刈草マルチに使っている。　クロタは、刈り取った後も芽を盛んに吹き出して、威勢が良い。

　台湾出身の方が、焙煎してコーヒーのようにして飲んでいると言う。　昔は、煮豆としても食べられていたようだ。　日本の「クララ」(オオルリシジミ蝶の食草)。外来種(アフリカ)の「セスバニヤ」にも同様の効果がある。

林、草原の「土」がフカフカしている。

青森県、山形県の白神山地に入るとブナ、クヌギ、ナラなどの落ち葉でフカフカだと聞く。　都立神代公園の草地もフカフカ、フカフカ。　同公園は、園内に放置林を保護している。その周辺の叢がフカフカなのである。

植物は育ち続けることで、周囲の生育環境を自ら良くしていく。　移動することはできないけれども、住み良い環境を少しづつ作るのである。　年々良くなる循環だ。野菜を栽培していく基本もここにあるのでしょう。

林も原も上から有機物が積もる。　畑地も有機肥料は、地表に置くだけで良い。　これが「不耕起栽培」の基本だ。　根周り近くには置かない。　根周り、株周りは清潔に。

雪深い山の木々たちの雪は、株回りから溶け始める。木々の根幹部分が、始めに露出してくるのである。　幹の周辺がぽっかりと穴があく。　野菜たちの畑の雪も植物周りから溶け始める。　うまくでいているのですネ。

菜園を「不耕起」で作りましょう。　表面をかき混ぜるだけにしましょう。

スマホ、パソコンで、拡大して見ますと日にちが確認できます。　筒口典康　ＧＡ会員の活動

豆　柿　　柿の仲間に小さな実をつけるものが有る。　今年、枝が垂れ下がるほどに実を付けました。　橙色になりましたのでいただくと、渋い！。　尋常な渋さではありません。　口の内皮がボロボロ。　恐ろしいしぶさに吐き出す。　それから１ヶ月、干す。　やや黒ずんできた。アマイ！。　更に網の袋に入れて干す。　豆柿の「干柿」になった。　干柿の菓子がありますが、渋抜きの小柿の味は素朴な味。ちょっぴり酸っぱいところが良い。　僅かの渋みを感じた時には、牛乳を飲むようにしている。市販の歯磨きに柿渋成分が入っている。　歯垢を取る働きがあるようだ。　柿渋には色々な効用がある。　Ｔ、